

セカンドステージ設計科目群

科目コード	OG319	科目名	童謡を通して社会を視る	科目群	第3群
担当者	井手口 彰典 (イデグチ アキノリ)				
開講日程・時限	夏期集中8月24日、25日、28日 (10:00~17:00)	授業方式	対面	単位数	2単位
備考	履修人数制限なし				
授業の目標	社会における常識は決して不変・普遍ではなく、時代や地域が変われば大きく様変わりします。この授業では、音楽（特に童謡）に注目することを通じて、そうした社会常識の変化を確認し、現代を「相対化」することを試みます。				
授業の内容	今日、「日本人の心のふるさと」などと形容されることの多い童謡・唱歌。しかしそのイメージは、常に今と同じだったわけではありません。気を博した児童歌手や「歌のおばさん」、アニメソングにCMソング、そして新しい音響メディア。めまぐるしく変わる社会のなかで、童謡はどう歌われ消費されてきたのか。その推移を眺めれば、今を生きる私たちの「常識」の脆さが見えてきます。懐かしい童謡・唱歌の裏側に垣間見える「社会」を、一緒に読み解いていきましょう。				
授業計画	<p>第1日 第1回 社会を「相対化」する目 第2回 唱歌と童謡の誕生 第3回 大正時代の童謡の特性 第4回 レコードとラジオの普及 第5回 児童童謡歌手の隆盛</p> <p>第2日 第6回 「歌のおばさん」の登場 第7回 転身・潜在化する児童童謡歌手 第8回 転換点としての1968年 第9回 錯綜する童謡イメージ 第10回 「ちびっこのだじまん」は何を変えたのか</p> <p>第3日 第11回 キメラとしてのちびっこソング 第12回 具象化される「ふるさと」 第13回 ふるさとのインデックス 第14回 社会の中の童謡</p>				
成績評価方法	平常点およびレポート試験の総合評価				
講義中に直接使用する教科書					
上記教科書以外の参考図書	井手口彰典、2018、『童謡の百年：なぜ「心のふるさと」になったのか』、筑摩書房、1760円（税込）。				
その他（HP等）	参考図書の購入は任意ですが、手元があればより理解が深まるはずです。				